



ージ性が含まれているかもしれない。

これまで便利一辺倒で進んできた私達ですが、外へ外へと向いていた意識が、ステイホームという切っ掛けを通して、内へ内へと意識を向けざるを得なくなつた自粛期間。そこで見た光景は、昔懐かしいアットホームな景色だったように思います。素朴でシンプルな生き方に気付かされたという一面がありました。

新型コロナウイルスの蔓延において、どうしてもネガティブで後ろ向きな意識が高まりやすくなりますが、一方では今までの活動を抑えて、内面に意識を向け、環境なども含め一人一人が考える時期を与えられたとも考えられます。

中国唐の詩人・杜甫（とほ）が記した「春望」の冒頭に「国破れて山河あり」という一節があります。これは、騒動が落ち着いたあとに深い感慨をもって呟かれる諺として使われることがあります。つまり「国破れて山河あり」とは、国は滅んでかつての面影は失われてしまつたが、故郷のうつくしい景色は在りつづけるという意味です。

コロナ禍は一つの切っ掛けに過ぎません。やがて治療薬ができれば収束します。私達はコロナ禍を福に転ずる力を持っているはずで、陰もまた窮（きむ）まれば陽に転じます。物事は行き詰まることは

ありません。窮まれば必ず変じて化する。変化したら必ず新しい発展があります。私達は常に実りの時（秋）を求めがちです。しかし収穫の後には、必ず滋養（じよう）を蓄える冬が来ます。その厳しい冬の後に来る春に種を蒔くから芽吹くのです。自らの強みを生かせる機会を見つけ、この機を生かし、来るべき新しい実りの秋に備えたいものです。

### ●【幸せ感じる意志を持つ】

「幸せ」とは感情であり、意志あるところに感じられるものです。「今日もご飯が食べられて幸せ」とか、自分の意志で感じようとするその心に「幸せ」の種が宿り実を結ぶのです。不機嫌な人には不機嫌な出来事が起きます。仏教では「因果応報」と教示されますが、上機嫌な人の周りには上機嫌な出来事が起こるようになります。幸せは人から与えられるものではありません。幸せは、その人が気付いて感じるものです。自分が幸せだと思ふことです。ある意味、これが「仏道修行」というものです。嫌な事があつても機嫌良くしている修行なんです。機嫌の悪い人の周りでは皆が気を遣っています。自分の機嫌くらい自分で取りましよう。上機嫌という種を蒔いている人には、上機嫌な事が起きるはずで。

不自由を常と思えば不足なし。國が何をして呉れるかで無く、國の為に何

が出来るかを胸に……。明治の偉人・福澤諭吉に「国を支えて国に頼らず」という言葉があります。まず一人一人が自ら考え動き、家庭や地域、国を支えていくのが自立した国家、個人のあり方です。

アメリカの国際政治学者・戦略家であるエドワード・ルトワックは、新型コロナウイルスへの対応は「その国の政府がどこまで機能しているかを試すリトマス試験紙である」と述べています。有事の際には、政府もメディアも国民も全てが運命共同体です。国家が滅びれば、政府もメディアも何もないわけです。

日蓮聖人に「異体同心（いたいどうしん）なれば万事を成す」という金言があります。

一人一人は違うけれど、心を一にして万事に当たれば、何事も成すことが出来るということです。一人一人の意識が大事です。自分さえ良ければそれで良いものではありません。妙法蓮華經（法華經）の示す真髓は、他がために尽くす事がその人の心に大きな変化を与え、やがては世を変える力になるといふ菩薩の精神です。菩薩の精神とは、互いに支え合う心を言います。今まさに一人一人の一手一投足に菩薩の精神が求められています。（次号に続く）

合掌 副住職 谷川寛敬

